

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年 2月20日

【評価実施概要】

事業所番号	2874700426		
法人名	かすみ福祉サービス有限会社		
事業所名	グループホーム 赤とんぼ		
所在地	兵庫県美方郡香美町香住区守柄1351 (電話) 0796 - 36 - 1800		
評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	兵庫県姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成20年1月10日	評価確定日	平成20年2月20日

【情報提供票より】(平成19年12月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成18年 3月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 4人, 非常勤 6人, 常勤換算	7.53人

(2) 建物概要

建物構造	木造2階	造り
	2階建ての	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,000 円	その他の経費(月額)	3,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)	
食材料費	朝食	150 円	昼食	250 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	2	要介護2	3			
要介護3	2	要介護4	2			
要介護5	0	要支援2	0			
年齢	平均	89歳	最低	77歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立香住病院、山本クリニック、蔵野歯科医院
---------	-----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

大自然の環境の中で地域に根ざした日常の交流が行われ、基本理念である「地域に開かれたホームとし、利用者と地域住民の共生を目指します」が具体的なケアとして行われている。床暖房やオゾン除菌システムを導入し、ホーム内の環境整備に配慮されている。県のグループホーム連絡会に加入し、研修や新しい情報などを取り入れ、質向上と運営安定のための取り組みをしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 第三者4)
	前回評価で改善課題となった、基本理念及び事業の運営方針が明文化されて玄関に掲示されており、改善に向けての取り組みを行っている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 第三者4)
	自己評価に対しては設立者である管理者が中心となり、必要な項目は職員の意見を聞いて行っている。全職員で自己評価に取り組んでねらいを理解し、日頃の業務の見直しの機会にするなど、より活用されることが望ましい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 第三者4, 5, 6)
	地域密着のグループホームのあり方、運営状況、入所・退所の基準についてや利用者の受診状況などを報告し、それぞれの立場から意見や課題について検討し、サービスに活かす取り組みが行われている。まだ1回しか開催されていないが、今後定期的開催し、いろんな立場の人から率直な意見を聞ける場になることを期待する。また、評価結果を踏まえた話し合いもしてもらいたい。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 第三者7, 8)
	家族に利用者の日頃の生活ぶりを定期的に報告し、コミュニケーションを大切にしている。意見や要望の聞き取りがスムーズにできる関係ができている。家族会の開催を考えているが、実現していない。面談では言いにくい不満や苦情を表せる機会を、家族会以外でも設けられるよう工夫して欲しい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目: 第三者3)
重点項目	地域のお祭りや作業、防災訓練には職員と共に利用者も参加し、住民としての役割を果たすよう、地域住民との交流に努めている。また、日頃からおすそ分けや道具の貸し借りなど、近所の人々と馴染みの関係を築いている。自治会にも加入しており、老人会の会合には職員と共に出席している。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「個人の尊厳を守る」「家庭的な環境で心身の機能低下を防ぐ」「地域住民として共生を目指す」という3本柱が趣旨の独自の理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアをする中で、理念の実践に取り組んでいる。しかし、管理者と共に理念について話す場はなく、まだ職員に浸透しているとはいえない。		管理者と職員が共に理念を意識して話し合う場を持ち、どう実践に活かしていくかを考えて欲しい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。老人会の会合にも出席し、地域行事(祭り、いも煮会、もちつき他)に参加し、地域の人々との交流の場を持っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を受けるのは今回で2度目となる。前回の評価を受けたことで改善された点もあるが、結果を踏まえて職員間で話し合いを持つなどはしていない。		評価にあたり、全職員で自己評価に取り組み、ねらいや活用方法を理解してもらいたい。また、結果を受けて改善に向けての検討をし、実践に繋げてほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	平成19年10月に第1回目を開催している。出席者は家族・職員・町会議員で、現状報告ほかの議題で話し合いの場を持っている。平成20年1月後半に2回目の開催予定。		今はまだ開催したばかりだが、今後定期的に開催し、サービス向上のために機能させて欲しい。また評価結果についても公表し、いろんな立場の人から率直な意見を聞いて活かして欲しい。
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	2ヶ月に1回行われているケア会議に出席している。地域包括支援センター職員や社会福祉協議会職員も出席しており、運営や実情を伝える機会を持っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	家族の訪問時に面談するほか、月1回郵送にて報告を行っている。外出した時や行事参加時の写真も同封し、家族に暮らしぶりを伝えている。		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	訪問時の面談で、意見や要望の聞き取りをしている。家族会を持ちたいとの思いはあるが、遠方に住まれていたりで実現はしていない。		家族会にかかわらず、家族が率直に意見や不満、苦情を表せる機会を工夫して作ってもらいたい。
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	運営者は職員の職場定着を重視し尽力している。そのため、今までに離職はなく、利用者との馴染みの関係が築けている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	「ケアの基本・スキルアップ研修会」などの研修を受けている。運営者は職員にいろんな研修の情報を提供し、休みが取りやすい勤務体制にしたり、費用の負担などのバックアップをしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「兵庫県宅老所・グループホーム・グループハウス連絡会」に加入している。また、連絡会主催の交流セミナーに参加し、情報交換やサービスの質の向上に活かしている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最近入居された方の帰宅願望には、他の入居者による声かけなどでうまく対処した。しかし、馴染めるよう事前に家族と相談するなど具体的な工夫はしていない。		入居待ちの枠を一人だけにしており、次の入居者が決まっている。今のうちから何回かデイのようにホームに訪問してもらったり、行事に参加してもらうなど、スムーズに入居できる工夫を家族と相談していくことが望まれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、貸し農園での野菜作りやもちつき、さといもの皮むきなど、いろんな場面でお年寄りには敵わないと思うことがあり、教わることも多い。共に支えあう関係ができている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々のケアの中で、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。認知症による問題行動に於いても、問題行動にこそ考えるヒントがあると捉え、本人本位の支援を検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は毎月立てている。管理者が本人、家族や職員の意見を聞き取り、計画に落とし込んでいるが、チームで課題や、ケアのあり方などを話し合う場はもっていない。</p>		<p>日々の関わりの中で、本人・家族の思いや意見を聞き、その時点に沿った個別具体的な計画作成のため、かかりつけ医にも意見を求め、職員の気づきやアイデアを反映した介護計画作成を目指してほしい。また、話し合いの場を作ってもらいたい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎月、介護計画の見直しを行っている。また、作成した介護計画は家族に郵送している。見直しのための話し合いは持っておらず、見直し以前に対応できない変化が生じた事例はない。</p>		<p>今後、送付する介護計画書に欄を設けて計画の確認をしてもらい、家族の意向や意見を書けるようにすることを考えている。ぜひ実現させて、本人・家族・必要な関係者の意見を反映した介護計画作成に活かされるよう期待したい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入院されている方への面会や必要な消耗品の差し入れなどをし、早期退院のための支援をしている。また、新しく看護師の採用も検討している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にし、それぞれ個別のかかりつけ医に、ほぼ毎日誰かの通院介助をしている。夜間・緊急時は香住病院。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設間もないこともあり、状態が安定された方が多い。そのため、重度化や終末期はどうするかという話し合いはしていない。		早い段階から本人や家族とも話し合い、重度化した時や、終末期の方針を検討して備えてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は尊厳を損なわない声かけや対応をしている。また、上から話さず、目線を合わせて話すよう指導している。個人の記録や対外的なことはほとんど管理者がしており、個人情報の漏洩防止に努めている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし、朝の起床時間もまちまちだが、柔軟に対応している。しかし、個別にしたいことをする場や物が見えてこない。		一人ひとりのしたいことを把握するため、希望をしっかりと聞いてほしい。その上でその日をどのように過ごすのか、さらに個性のある支援を工夫して行ってほしい。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食材の皮むきや後片付けは一緒に行っている。リビングのスペースが狭いため、入居者が食事をしている間は職員は介助や見守りをしている。		食事は暮らしの中でも重要な位置にある事を認識し、献立作りや調理・配膳などの場面でもできることを活かし、一緒に準備できるよう支援してほしい。職員と同じテーブルで話しながら食事を楽しめるよう工夫してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望により毎日入浴したり、仲の良い方どうし2人で入浴したりしている。概ね、2日に一度、昼からの入浴だが、希望があればいつでも対応できる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	貸し農園で大根や玉ねぎなどの野菜を作っている。草ぬきなど生活歴に基づいた役割を持ち、収穫を楽しみに育てている。洗濯物をたたむなど日々のことやもちつき他、活力を発揮できる場面を作っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	最低でも月2回は全員で外出できるよう心がけている。個別の散歩にも日々対応している。喫茶店に行ったり、外食の機会も持ち、戸外へ出ることを積極的に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけていない。職員も鍵をかけることの弊害を理解している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>地域の消防団と共に年1回消防訓練を行っている。消防署とガス会社に緊急通報ができるように通報システムを整備している。また、各居室にはスプリンクラーを設置している。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分補給の重要性を職員共に理解し、努めて水分補給ができるよう日々の計画に盛り込んでいる。栄養のバランスは調理師が考慮して献立を立てている。しかしながら、一人ひとりの大まかな栄養摂取量や水分量の把握はできていない。</p>		<p>取るべき栄養摂取量を知り、個々に食事や水分の摂取状況を把握して、大まかな栄養摂取総量がどの位になっているのか調べて欲しい。</p>
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビングは日当たりが良く明るくて、こたつのある畳のスペースもあり、居心地のよい空間になっている。また、床暖房で暖かい。花が飾られていたり、金魚が飼われていたり、五感刺激への配慮がされている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホーム自体が民家を改築して建てられているので、それぞれの居室は広さなどかなり変化がある。ベッドも備え付けながら同一ではなく、その他の家具は持ち込み自由で個別性のある居室になっている。オゾン除菌をしており、臭いも気にならない工夫がされている。</p>		

 は、重点項目。